

山田隆太郎展
土から生れし



2017. 3. 18 SAT - 26 MON

GALLERY
うつわノート

粉引灰被り扁壺
幅 190mm 奥行 170mm 高さ 170mm



粉引灰被り平碗(新和田土)
口径 195mm 高さ 65mm



三島手碗(新和田土)
口径 148mm 高さ 84mm



粉引片口鉢(奈良月ヶ瀬土)
幅 210mm 奥行 155mm 高さ 95mm



粉引灰被り壺(新和田土)
胴径 250mm 高さ 320mm

料金後納
ゆうメール

POST CARD

山田隆太郎さんは現在、神奈川県相模原市（旧・藤野町）の山間部にある古民家で制作しています。元々、故・青木亮さんが工房とされていたところを借り受けました。作るうつわは写真の通り、いわゆる「土もの」がメイン。粉引や鉄釉などその源流は朝鮮の古い器に繋がりますが、古典をそのまま再現することを目的とせず、あくまでご自身の眼による現代の「うつわ」を本題としています。従来より使い易さ、味わい深さを主にした「食器」を中心に製作していますが、本展では地元で掘った原土による薪窯焼成の一点ものなど、より強い「うつわ」へのチャレンジも見られ、個性のある出品物が見所となります。

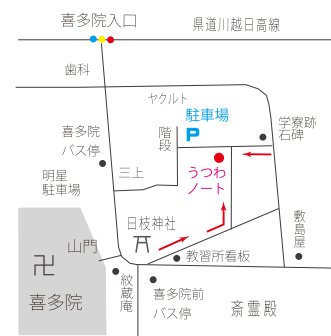
大学時代は環境デザイン学科でインテリアを学びました。在学中に陶芸教室に通ったことが契機となり、卒業後は造形作家・樋口健彦氏のもとでアルバイト、そして多治見の意匠研究所で本格的に陶芸を学びました。その地で6年過ごした後、2014年に今の工房に移り、現在に至ります。造形家の手伝いや意匠研卒という経歴からすると、もっと作家志向の強い「アート作品」を目指していてもおかしくないのですが、さにあらず、日常を基盤とする「うつわ」の美しさを求める方向を選んだことが、山田さんのユニークな所でしょう。

滋味豊かな「うつわ」。言葉にすると単純ですが、それを実現するには外形的要素だけでなく、謙虚な精神性に基づいてこそ近づけるのではないかと思います。土から生れしものは、大地のような揺らぎない美しい世界と繋がっている。山田さんの「うつわ」を見ると、そう思うのです。どうぞお出掛けください。 店主

山田隆太郎展 土から生れし
二〇一七年三月十八日(土)～二十六日(日) 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 三月十八日(土)・十九日(日)

プロフィール
1984年 埼玉県生まれ
2007年 多摩美術大学環境デザイン学科修了
造形家 樋口健彦氏に師事
2010年 多治見市陶磁器意匠研究所修了
多治見市にて独立
2014年 神奈川県相模原市(旧・藤野町)に移転
2017年 現在 同地にて作陶

ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL: 049-298-8715 MAIL: utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～ [喜多院前] 駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～ [喜多院]
車：ギャラリー専用駐車場は北側(5～8番)



刷毛目碗(新和田土)
口径 152mm 高さ 85mm



粉引吹流し筒碗(新和田土)
口径 135mm 高さ 100mm



猫揃み急須
胴径 115mm 高さ(猫み込) 120mm



三島手刷毛(新和田土)
口径 85mm 高さ 95mm